

地域の移動はみんなでつくる



Community Drive Project



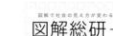
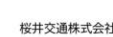
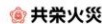
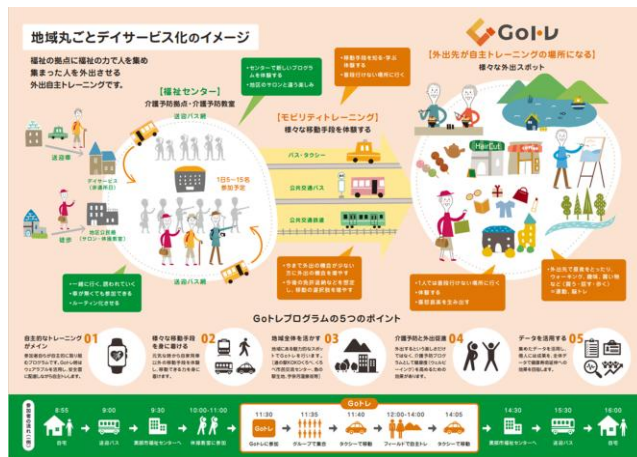
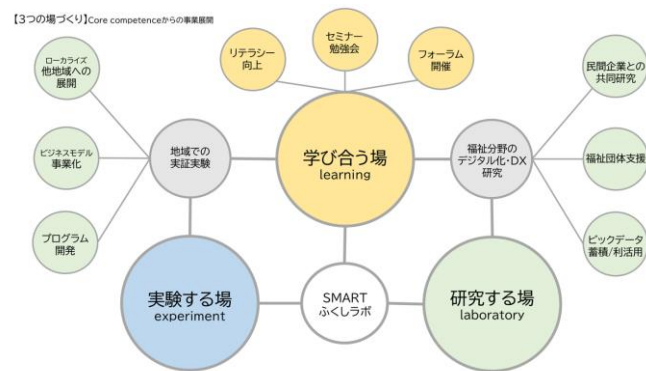


Community Drive プロジェクトの前身
地域の移動課題についての調査研究から生まれた

2022年4月設立。**福祉分野のデジタル化
ならびにDXの推進**を目指し、黒部市社会福祉協議会で進めてきたシンクタンク事業の発展強化と広域的な活動を行う。

2021年度から地域の移動課題に注目し、**トヨタモビリティ基金の助成**を受け、3年間調査研究と実証実験などを実施。





地域課題の背景と構造

解決すべき構造的課題

黒部市（人口約3.9万人、高齢化率33%）を中心に実証を展開
全国約1,200自治体が同様の移動課題に直面
地方の移動課題は福祉・教育・物流等と相互に関連
従来の「実証実験→撤退」の悪循環から脱却が必要

移動課題が全分野横断的である理由



教育・体験機会

子どもが習い事や体験活動に行けるかは親の送迎に依存。
移動手段がないと教育機会を喪失



健康・生きがい

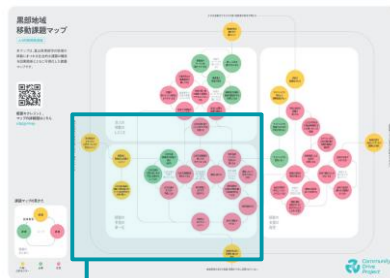
高齢者の外出を支える公共交通の縮小は、買い物や健康維持、
社会参加の機会損失に直結



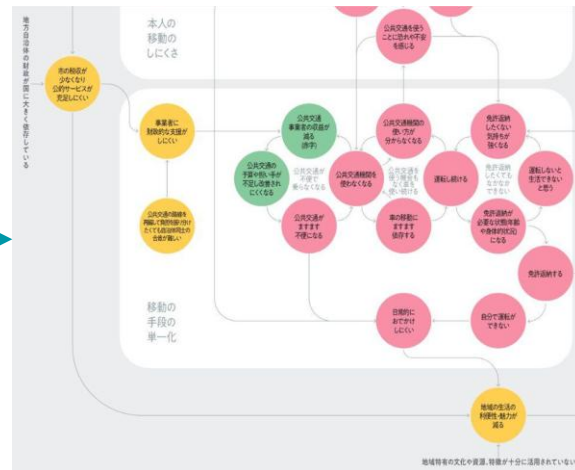
物流・災害対応

災害時（緊急時）に物資はあっても現場に届けられない。
地域内物流の仕組みが不可欠

▼昨年度作成した黒部地域の移動課題マップ



▼課題が横断的であることがわかる



「コミュニティをドライブする」知見を持つ3社がタッグ



課題の当事者

地域のつながり

財源の循環



課題の整理・構造化

デザイン

PJ推進・事務局



合意形成

データ分析

まちづくり

一般社団法人コミュニティドライブを設立（2025年4月から活動）



コミュニティドライブプロジェクト

黒部市・福山市の取り組み紹介



サービス開発から始めるのではなく、地域の人々による
自発的な活動が持続する「しくみ」をつくることから始める。

Community Driveプロジェクトとは

公共・企業・地域住民の各セクターに

地域（Community）の動きを加速（Drive）させる人材である

「コミュニティ・ドライバー」がいることを目指します

そのために、「住民の主体性」と「地域の合意形成」を地域に生み出す対話、調査、可視化、実行を組み合わせたプログラムを提供します

※コミュニティドライバーは運転手だけを指すのではなく、地域の移動課題解決に主体的に取り組んでいく人材のことです。

地域の身近なところに
集いの場を
開催している

こどもが、車を運転で
きない親に買い物をし
てきてくれる

町内の高齢者の方々が
学童の通学の見守り、
あいさつ、声かけを
してくれる

近所の人々がスポーツ
少年団の送迎を
してくれた

長野県では行政が
看護師を車にのせて
地域に運んでいる

近所の人々が、実家の母
を買い物や病院に連れ
て行ってくれる

交通事業者として、も
っと住民の声を
聞いていきたい

車椅子の自分の外出す
るための支度を友達が
手伝ってくれる

鉄道を活かした
まちづくりを
考えている

会社でお弁当屋さんの
代わりに高齢者の食料
の配達と見守りをして
いる

娘であるわたしが
祖父の免許返納を
サポートした

いところ同士で土日にお
互いの子どもを
送迎している

コミュニティ・ドライバー

地域の動きを加速させる人

Community

Drive

お祭りのとき近所の人
たちをまとめて
輸送した

会社として車がなくな
くとも暮らしやすいウ
ォーカブルな街づくりに
組んでいる

ちょっとした困りごと
を解決するための住民
同士の助け合いサービ
スを始めた

妻とママ友が大型SCへ
の買い物の運転を交互
に行った

子どもの習い事の
送迎を友達が代わって
くれた

雪の日に近所の道を率
先して雪かきする

NPOが有償ボランテ
ィアで移動支援をして
いる

ヘルパーさんが高齢者
の家に行き買ってきて
欲しいものを聞き買い
物に行く

バス会社の運転手が同
じグループ内の給食会
社の食事を運んでいる

私(交通協議会委員)が町
内の公共交通のお困り
ごとを聞き議会で発言
する

黒部市が毎年公共交通
に関するニュースレタ
ーをつくって
全戸配布している

ボランティア団体が災
害支援物資を運んでく
れた

公共的な移動

鉄道やバス、タクシーなど、
制度・規制・補助がある移動

共創でつくる移動

多様な主体が対話を重ね、資源と関係性を
つなぎ直して共に設計する新しい移動

企業や民間の移動

企業や民間団体が業務や物流のために保有・
活用してきた仕組みによる移動

生活のための移動

自分や家族、近隣住民の送迎や助け合いによ
って成り立ってきた日常的な移動

「共創でつくる移動」を実現させるために
必要な3つのこと

人づくり

発掘と育成

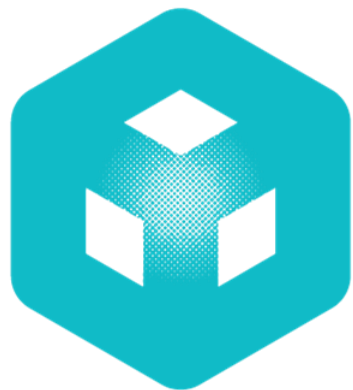
**事業主体
づくり**

役割分担から共創

マインドセット

誰かがではなく、私たちで

コミュニティドライブプログラム



*Community
Drive
Program*

人材の発掘と育成・マインドセット



対話

顔をみて意見を交わす

- 地域住民、企業、行政の方にそれぞれお話を聞く会を開催
- 多様な立場の方を一同に集め、お互いの立場を越えた議論



調査

地域の実状を知る

- 地域住民の移動経路を調査
- 企業に車両保有台数や用途、課題感などを聞き取り



可視化

課題やデータを見える化

- 様々な意見、課題の本音を聞き取り、AIで解析し分析
- 地域の移動の課題を見える化



実行

実際に行動に移していく

- 上記3つの活動で地域の主体性と合意形成を築き、みんなで移動の課題をどうできるか、解決策を小さく実行していく



展開

他地域へ展開していく

- 上記4つの活動を全て統合し、他地域でも汎用性のあるツールやプログラムを企画開発
- 今後他地域での展開を行う予定



ミライドライブワークショップ



活動まとめ (2024年度CDPJ黒部)

全体

メディア掲載

12件

新聞・Webメディア掲載

活動への関心が深まった人

94%

参加者アンケート

コミュニティドライバー

10名以上

一緒にCDPJやってくれた人

対話

対話の場への参加

230名超

ワークショップ・ヒアリングなど

参加者の年代

12～75歳まで

小学生からご年配の方まで

コミュニティドライブ数

154件

地域の移動の自助,互助,共助,公助

調査

集まった本音の数

154名 245件

ホネPOST投稿数

住民向け移動の実態調査

79名 164件

モビ地図記入者数

企業向けヒアリング調査

24件

企業向けヒアリング&フォーム回答

可視化

可視化された課題の数

115件

マップへの課題掲載数

課題に対する共感シール

236枚

マップへ貼られた共感シールの数

新たに貼られた課題の数

59件

課題マップに貼られたふせん

Community Drive
2025

年度の取り組み

Community Drive プロジェクト 2025

黒部エリアについて福山エリアでもプログラム開始

異なる特性をもった地域による広域連携でコミュニティドライブを多角的に推進

STEP 1：住民・企業・公的セクターを横断した対話・調査・可視化

STEP 2：見えてきた課題に対する小さな実証(マイクロプロジェクト)実践・共創

- 2025年2月 キックオフ開催
- 2025年7月 プログラムSTEP 1 開始予定

STEP 1 広島県福山市

中山間地域×都
市部の複合構造



人口：約44万人

STEP 2 富山県黒部市

高齢化率32%
免許返納者多数



人口：約4万人

- 2024年7月 プログラムSTEP 1 実施
- 2025年7月 プログラムSTEP 2 予定

※この他にも、複数地域での展開に向けた協議が進行中

Community
Drive
Project
Fukuyama



7月17日 CDPJ@福山キックオフイベント



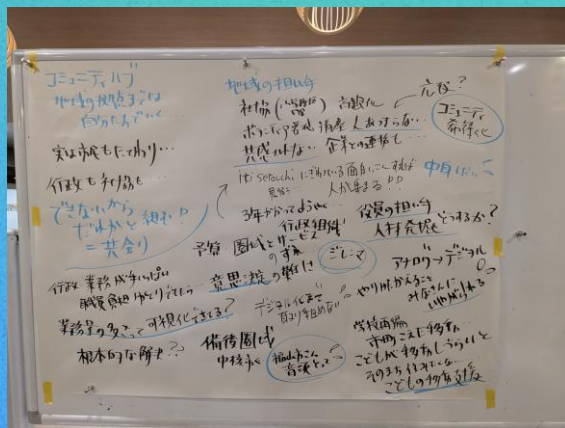
7/18 行政向けWS



9/9 企業向けWS



9/27 住民向けWS





第1位:夜は街灯が少なく真っ暗で、移動が不安。
第2位:東京で運転を試みたが、すぐに諦めてペーパードライバーになった。
第3位:コミュニティ内で送迎を頼み合えばいいが、現状は難しい。



Community
Drive
Project
Kurobe



7月11日 CDPJ@黒部 キックオフイベント



今年度は6回開催予定

来れるときに来て、
みんなで学び、
みんなで考え、
みんなで動く。

【追加】9月20日、21日に
「くろべフェア」でのリサーチWS実施



未来の移動を創る研究拠点
モビLAB@KUROBE基地
2025スケジュール

モビLAB@KUROBE基地

【事務局】

一般社団法人
SMARTふくしラボ

黒部市金屋77番地2
まじわるパーク「MAJIPA」

☎090-5754-3888
<https://cdpj.jp>

COMMUNITY DRIVEPROJECT

8月19日(火)

18:00-20:00

起動！モビLAB@KUROBE基地：3つの謎を検証せよ！

場所：まじわるパーク「MAJIPA」（黒部市金屋77番地2）

目的：昨年からの移動課題をデータと対話で再確認し、上記3つの「〇〇説」という仮説**を共有。それぞれの検証と解決を目指すマイクロプロジェクトのテーマを決定します。

9月17日(水)

18:00-20:00

実験開始！モビLAB@KUROBE基地：研究データ収集と初期分析

場所：まじわるパーク「MAJIPA」

目的：3つのマイクロプロジェクトそれぞれの実行計画を具体化し、データ収集方法を確立。実験開始前の最終調整を行います。

10月4日(土)

10:00-12:00

中間報告会：データが語る3つの「〇〇説」の真実

場所：まじわるパーク「MAJIPA」

目的：3つのマイクロプロジェクトそれぞれの中間データを分析し、仮説の検証状況と、そこから見えてきた新たな示唆を共有。必要に応じて仮説や実験内容を修正します。

11月18日(火)

18:00-20:00

最終検証報告会：謎の解明と新たな問い

場所：まじわるパーク「MAJIPA」

目的：3つのマイクロプロジェクトそれぞれの最終的なデータに基づき、仮説がどこまで検証されたか、そして移動の謎がどこまで解明されたかを報告。同時に、解決策から生まれた**「新しい価値」**にも焦点を当てます。

12月19日(金)

18:00-20:00

基地総括：知見の集約と未来のロードマップ

場所：まじわるパーク「MAJIPA」

目的：この1年間の「モビLAB@KUROBE基地」での研究成果を総括し、得られた知見と経験を未来の活動に繋げるロードマップを策定します。

1月24日(土)

10:00-12:00

最終報告会：黒部の移動の未来を創造する

場所：コラーレ「マルチホール」（黒部市三日市20）

目的：モビLAB@KUROBE基地の活動全体の最終報告を行い、これまでの成果と今後の展望を広く共有します。特に、プロジェクト化・事業化・サービス化に向けた具体的な進捗と、地域への貢献可能性を提示します。

未来の移動を、みんなで研究し、みんなで創る

ラボ
モビLAB@KUROBE基地

始動！

モビLAB@KUROBE基地

モビLAB@KUROBE基地は、「地域の移動はみんなで作る」を合言葉に、黒部地域の“移動の謎”（具体的な課題）を解き明かすための研究拠点です。課題解決というミッションに、発見の楽しさと知的な興奮を盛り込み、より快適で楽しい移動の実現を目指します。

参加者

専門知識は不要！どなたでも参加できます！

モビLAB黒部基地に集まってくれた

- ・コミュニティドライバー（＝研究員） ・参加者（＝研究員）
- ・〇〇〇研究員 ・関心を持って来てくれた人（＝研究員）

Community Drive Project チームメンバー

- ・一般社団法人SMARTふくしラボ ・一般社団法人コミュニティドライブ
- ・Co mobility Lab（株式会社日建設計） ・株式会社Liquitous
- ・株式会社図解総研 その他、各分野の専門家

3つのマイクロプロジェクトを推進

1

住民の意識一つで
公共交通の利用は
増える説



2

公共交通機関を活用
すればどこから
でも介護サービス
は受けられる説



3

助け合いサービス
でちょっとした困
り事が解決する説



黒部の移動をみんなでもっと楽しく・快適に変えていく

みんなが研究員

CXO

最高〇〇責任者

一人一人がいろんな知見と経験を持ったプロフェッショナル

実際に
こんな
責任者が！

CTO：最高つなぐ責任者
CYO：最高よりそい責任者
CKO：最高経験を伝える責任者
CTO：最高つつこみ責任者
CJO：最高(バス)事業説明責任者
CNO：最高ニコニコ責任者 etc





最高寄り添い責任者 (CYO)
(村上兄弟) アニー

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高運転責任者 (CUO)
まーくん

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高つつこみ責任者 (CTO)
のん

📺 モビLAB #02本番 🔄 2025



最高経験を伝える責任者 (CKeik)
つぐ

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高当事者責任者 (CTO)
わかっち

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高つながり責任者 (CTO)
ようちゃん

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高つなぐ責任者 (CTO)
なりりん

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高なごませ責任者 (CNO)
まちりんママ

🔄 2025黒部キックオフイベント



最高調査責任者 (CCO)
ナカ

📺 モビLAB #01本番 📺 モビL



📺 モビLAB #01本番 📺 モビL

ミニインプット



CJO

最高(バス)事業説明責任者

飯村 研吉

コミュニティドライバー



モビLAB 月 1 会議の様子

関心あるマイクロプロジェクトについてチームごとに会話



公共的な移動

鉄道やバス、タクシーなど、
制度・規制・補助がある移動

でかけレールPJ

乗らず嫌い脱出PJ

企業や民間の移動

企業や民間団体が業務や物流のために保有・
活用してきた仕組みによる移動

共創でつくる移動

多様な主体が対話を重ね、資源と関係性を
つなぎ直して共に設計する新しい移動

生活のための移動

自分や家族、近隣住民の送迎や助け合いによ
って成り立ってきた日常的な移動

ココロネット応援PJ

黒部市の移動ミステリーに挑む！モビLAB 2025年度計画

モビLAB@黒部基地は、2025年度、「意識変革」「課題解決」「資産活用」の三位一体で、3つのマイクロプロジェクトを同時推進し、地域の移動の未来を共創します。

プロジェクト①：意識変革 「“乗らず嫌い” 脱出大作戦」



市民の「思い込み」の壁を壊す

「公共交通は不便」という思い込みと、「実は便利」というデータの差を縮める。



体験を通じて「隠れた便利」を発見

市長春知図のキャンペーンを実施し、移動の選択肢を豊かにする。

70%以上

目標：参加者の70%以上が意識変革
公共交通への関心・意識が高まったと回答することを目指す。

プロジェクト②：課題解決 「でかけレール × 助け合い交通」



介護施設の送迎が限界に

ドライバー不足やコスト場により、高齢者の移動が困難になっている。



鉄道と「助け合い」を組み合わせた新モデル

駅界の公共交通と住民の送迎を連携させ、介護施設の負担を軽減する。

半分以下

目標：移動時間を半分以下に短縮
宇奈月エリアから特定施設までの移動時間短縮を実現する。

プロジェクト③：資産活用 「ココロネット応援大作戦」



眠っている地域の助け合い資産

駅界の助け合いサービスが「知らない・不安」という理由で活用されていない。



「知らない・不安」から「知ってる・安心」へ

不忘の資産を調査・分析し、誰もが安心して使える取組を共創する。

60%以上

目標：利用意向60%以上を達成
サービスの認知度と「使ってみたい」と感じる市民の割合向上を目指す。

3つのマイクロプロジェクトの基礎調査



プロジェクト①

くろべ"乗らず嫌い"脱出大作戦！



調査A



アンケートにご回答くださった方にもれなくBOXティッシュプレゼント！
おかしつつかみどりもできるよ！（対象：小学生以下）

一般社団法人 SMARTふくしラボ



プロジェクト②

でかけレール×助け合い交通



調査B



アンケートにご回答くださった方にもれなくBOXティッシュプレゼント！
おかしつつかみどりもできるよ！（対象：小学生以下）

一般社団法人 SMARTふくしラボ



くろべフェア
来場者アンケート

【調査目的】
このアンケートは、黒部市内の「乗車」に関する多岐にわたる課題を把握し、地域全体の意識を向上させるために実施するものです。調査結果は、まちづくりのプロジェクトについて、市民の意見からのご意見を収集し、今後の施策に活かすために活用させていただきます。

※アンケートは、くろべ"乗らず嫌い"脱出大作戦！、でかけレール×助け合い交通、ココロネット応援大作戦の3つのプロジェクトに関するものです。

※実施日：2025年9月20日、21日
※対象者：くろべフェア来場者
※回収結果 合計245件
調査A：95件（黒部市内8：市外2）
調査B：69件（黒部市内8：市外2）
調査C：81件（黒部市内8：市外2）

※お問い合わせ：黒部市、黒部市、黒部市、黒部市



プロジェクト③

**"おたがいさま"で繋がる！
ココロネット応援大作戦**



調査C



アンケートにご回答くださった方にもれなくBOXティッシュプレゼント！
おかしつつかみどりもできるよ！（対象：小学生以下）

一般社団法人 SMARTふくしラボ

リサーチワークショップ 9月20日、21日
くろべフェアで実施





でかけレール × 助け合い交通

背景

黒部市、特に宇奈月エリアのような山間部では、高齢化が急速に進み、介護施設への送迎が重要な課題となっています。多くの介護施設は、送迎ドライバーの確保や、燃料費・車両維持費の高騰といった運営コスト増に直面しており、サービスの維持が困難になりつつあります。この課題は、施設利用者の生活の質（QOL）の低下に直結し、やがて地域全体の介護インフラの脆弱化を招く恐れがあります。

解決のヒント

地域住民の中には「何か困っている人の力になりたい」という潜在的な助け合いの意識があり、自家用車を運転できる人はまだ多く存在します。また、富山地方鉄道は利用者の減少傾向にありますが、地域にとって重要な公共交通インフラであり、駅という長年親しまれた公共的な拠点にも利活用のポテンシャルがあります。

核心コンセプト

介護事業者が抱える送迎課題に対し、富山地方鉄道（公共交通）と、宇奈月エリアの住民による「助け合い送迎（地域交通）」を組み合わせた、新しいハイブリッド型の移動モデルを構築・検証します。

中核となる 検証仮説とKPI

検証仮説

この新モデルは、時間・コスト・職員の負担を大幅に削減し、潜在ニーズを掘り起こし、利用者のQOLを向上させる

KPI

宇奈月エリアから「ジューシー」までの移動時間を半分以上に短縮できることを実証する

具体的な実験

シミュレーション

実際の想定コースを実施してみる。（運営、コスト、時間などの検証）

可能性の検証

特定地域での移動支援体制構築の可能性の検証を行う

住民の移動を可視化したモビ地図の活用

可視化

調査

Step1 調査



公共交通のルート
住民の移動ルート
介護送迎のルート

Step2 分析



介護送迎のルート



公共交通のルート

×



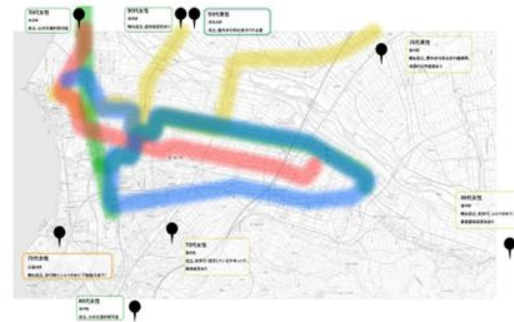
これまで送迎できなかった方リスト



住民の移動ルート

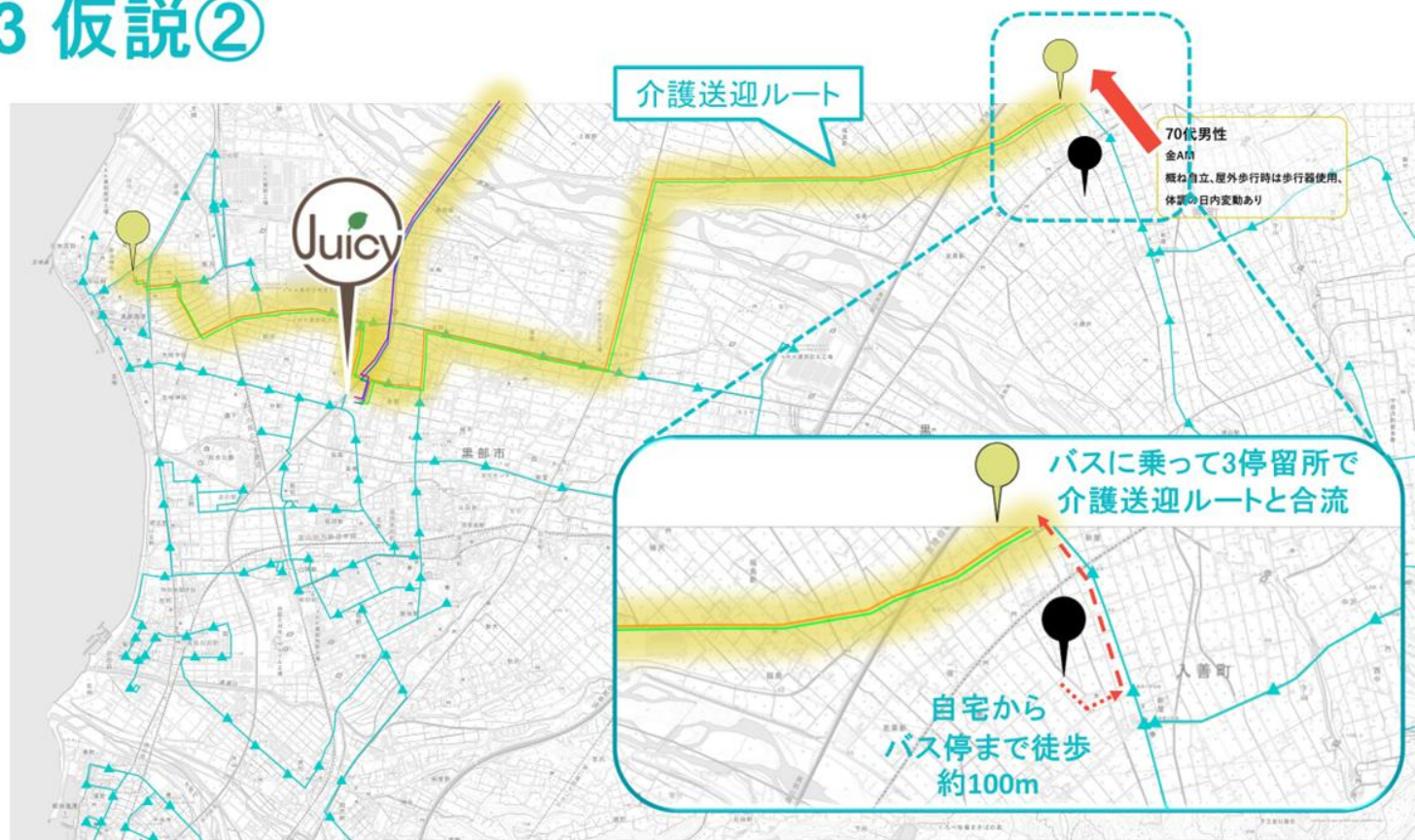
さまざまなルートを重ね合わせる

Step3 仮説



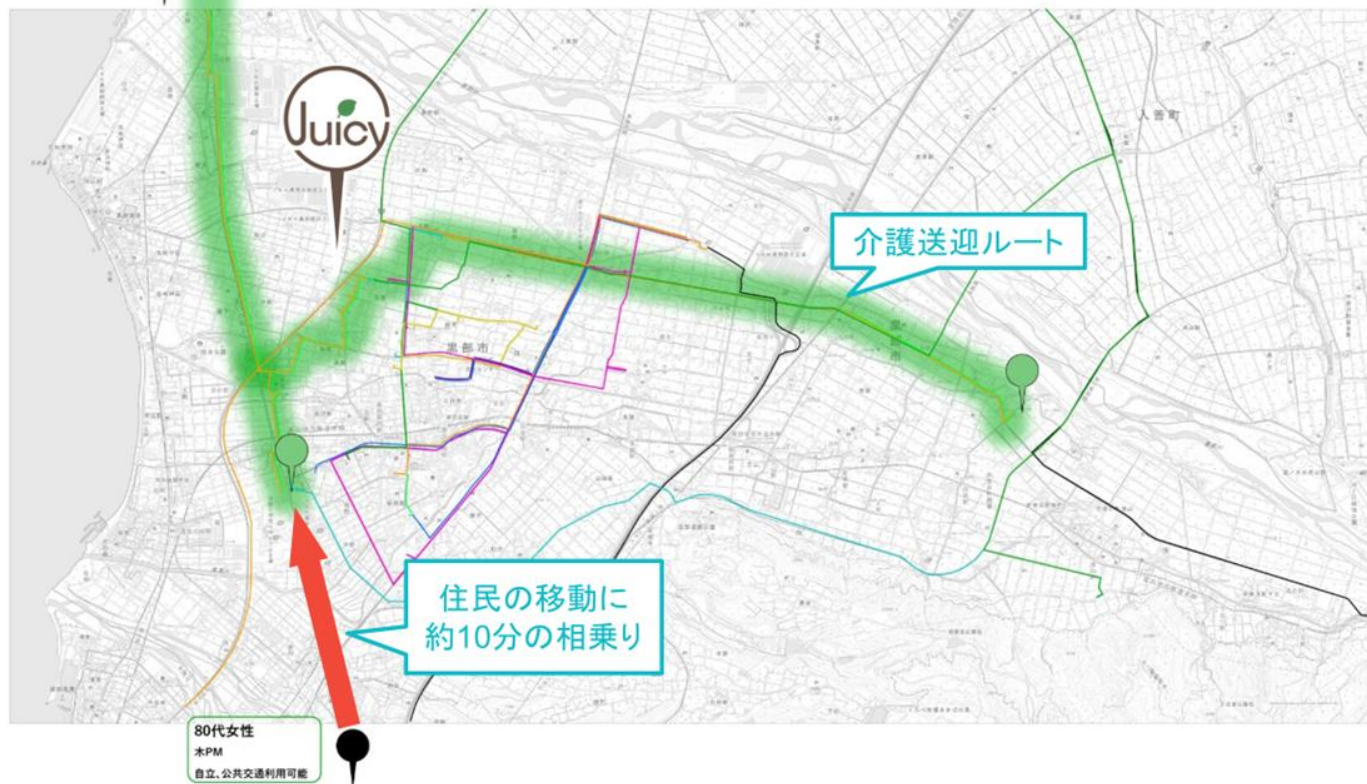
仮説を見つける

Step3 仮説②



公共交通(鉄道・バス)と介護送迎の組み合わせ

Step3 仮説②



住民の移動と介護送迎の組み合わせ

マイクロプロジェクト②「でかけルール × 助け合い交通」

実際のルートイメージ



例：10:30 8:17発 受本 駅 13:11着
移動手段 12:58発 17:15着。



8:34着 12:43発
13:16着 東三田市 駅 16:53発。



9:00 - 12:00
13:30 - 16:30

- ・キャンセルは当日の朝が99い
- ・冬場(降雪時)は事情がらからてくる
- ・電車の待ち時間に買い物などできるか。

- ・電車に乗り降りできるか。(東三田市のおが安全)
- ・ハードルの高い午前でやってみる価値はある
- ・送迎の

運行実験の内容

いつ

平日の午後の枠を想定

どこで

下りより遠方の駅からがよい

どのように

トライアルをする
事業者内の運送ができればいい

準備すること

駅までの送迎に向けた地区と9
調整

注意すること

参加できる人



CYO
アニー
村上勇樹

「地域鉄道」と「介護送迎」の連携で未来を創る：でかけレール×助け合い交通 実証プロジェクト

富山県黒部市：高齢者の移動と地域鉄道の活性化を目指すハイブリッド移動モデルの実証実験

地域の「2つの大きな課題」

介護施設の送迎 が限界に



介護職員の労働時間の
約**38%**が送迎業務

8時間労働のうち約3時間が送迎に割かれ、本来の介護サービス提供を圧迫。



ドライバー不足・コスト増

ドライバー不足やコスト増により、遠方に住む高齢者がデイサービスを利用できない問題が発生。

利用者が減り続ける 地域鉄道



人口減少と車社会化で、地域の重要な足である鉄道の維持が困難な状況。

解決策：新しいハイブリッド移動モデル

3段階の連携で、自宅から施設までをシームレスに
地域住民・鉄道・介護事業者が連携し、ドアツードアの移動を実現します。

ステップ1: 自宅 → 最寄り駅 (地域住民による「助け合い送迎」)



 富山地方鉄道



ステップ2: 駅 → 目的地駅 (富山地方鉄道)

 「移動＝リハビリ」
という新発想
ウェアラブル端末で移動中のデータを収集し、公共交通の利用が健康増進に繋がることを証明。



ステップ3: 目的地駅 → 介護施設 (施設の共同送迎)

実証実験の
具体的な目標値





研究員

40

名以上

10代

から

70代

多様な参加



コミュニティドライブプロジェクトの 可能性と展望

「共創でつくる移動」を実現させるために
必要な3つのこと

人づくり

発掘と育成

**事業主体
づくり**

役割分担から共創

マインドセット

誰かがではなく、私たちが

主体的な関わりへの変化

モビLAB@黒部基地の研究員でCTO(チーフ当事者オフィサー)の若井さんは、地域の皆さんへのヒアリング調査に当事者である私が行った方が、同じ年代の方に話を聞きやすいから参加する！と当日会場に。

スマホで入力が苦手な方に、丁寧に対話をしながら思いや、ぽろっと出てくる本音などを聞き取りされていました。アンケート結果も重要だけど、現場で聞いた声はホントにリアリティがあるし、このインプットが大事だねとお話されていました。

コミュニティドライブプロジェクトが目指す人材「コミュニティドライバー」は、地域の移動課題解決を主体的に考え、動いていく人と定義しています。まさに、若井さんはコミュニティドライバー！！

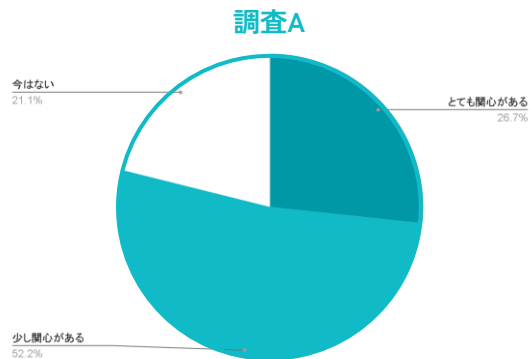


スマホ入力が苦手な方に対して、丁寧にヒアリングする若井さん

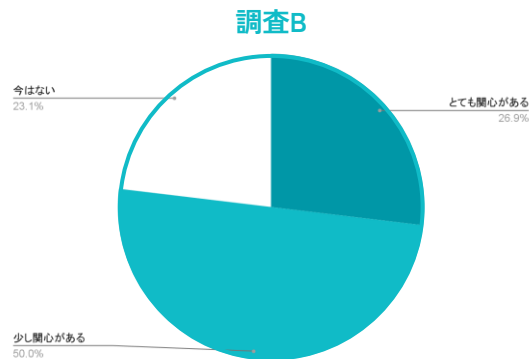
アンケート結果（速報）

今後の活動についての関心度（調査A,B,C全ての回答）

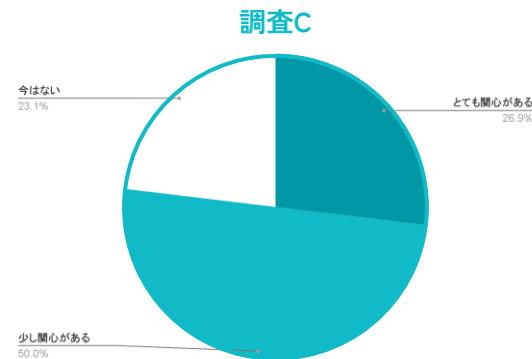
全体の8割以上がこの活動に「関心がある」と回答



マイクロプロジェクト①
「くろべ“乗らず嫌い”脱出大作戦！」



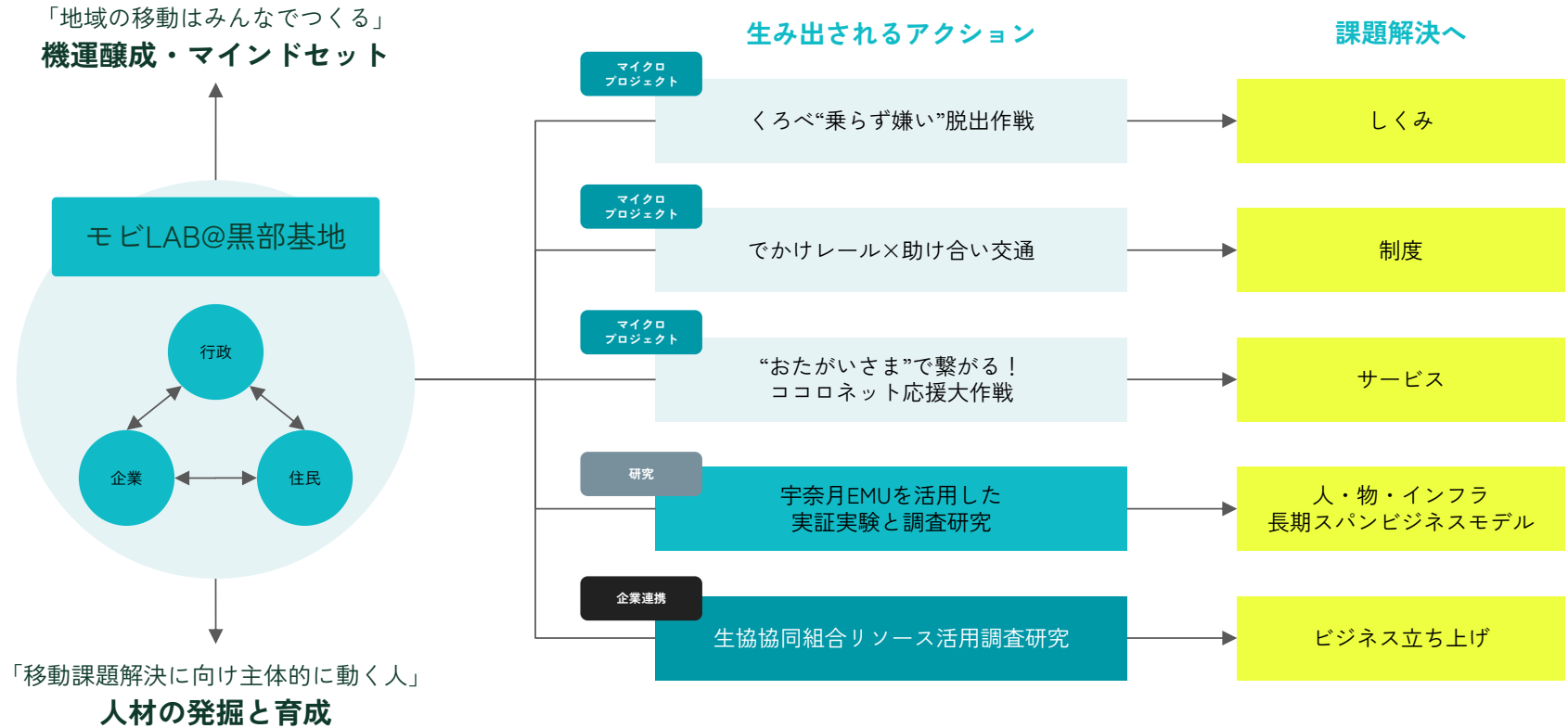
マイクロプロジェクト②
「でかけルール × 助け合い交通」



調査Cマイクロプロジェクト③
「“おたがいさま”で繋がる！
ココロネット応援大作戦」

● とても関心がある ● 少し関心がある ○ 今はない

モビLAB@黒部基地が生み出す価値



「共創でつくる移動」を実現させるために
必要な3つのこと

人づくり

発掘と育成

**事業主体
づくり**

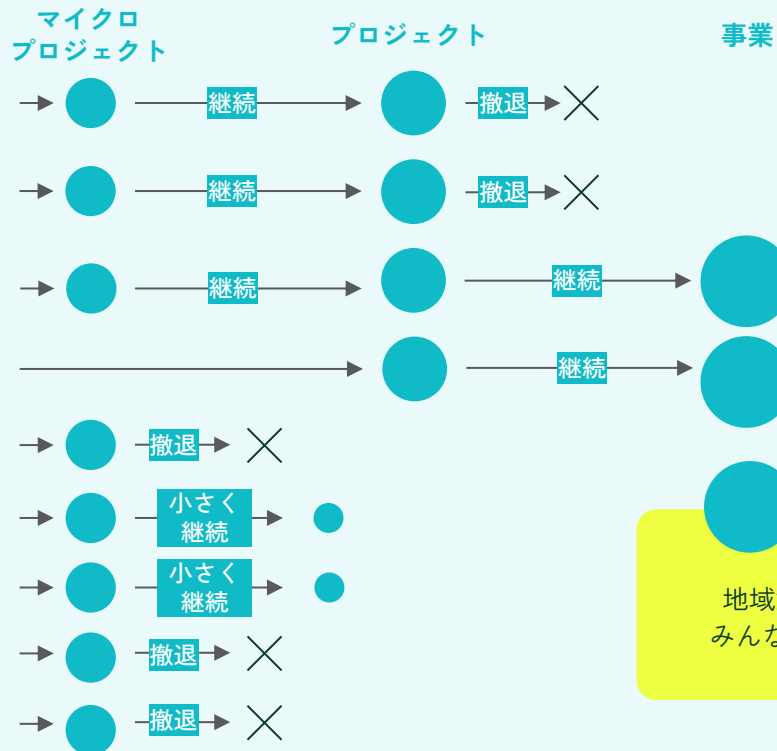
役割分担から共創

マインドセット

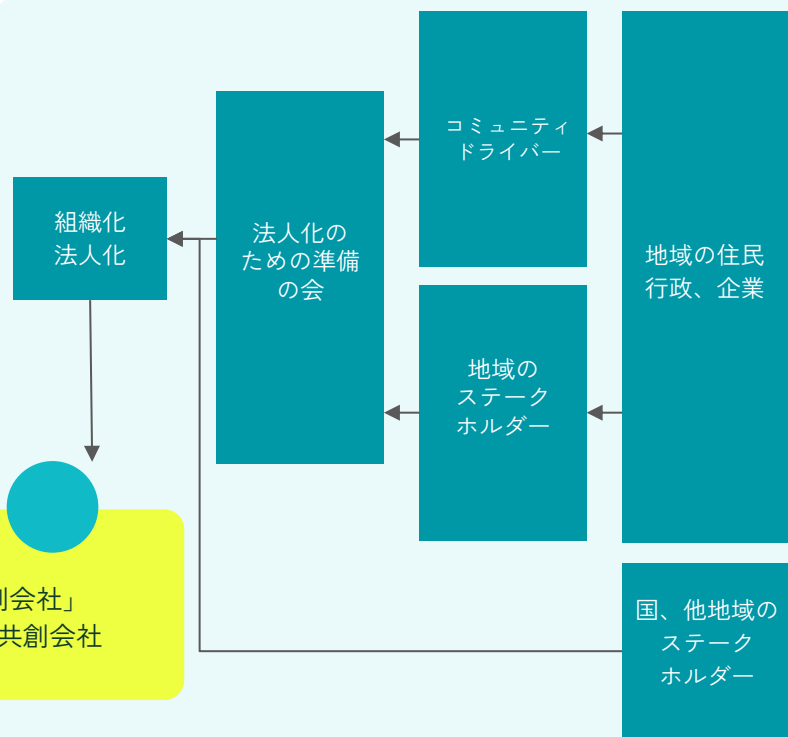
誰かがではなく、私たちで

事業化と組織化を両軸から進めていく

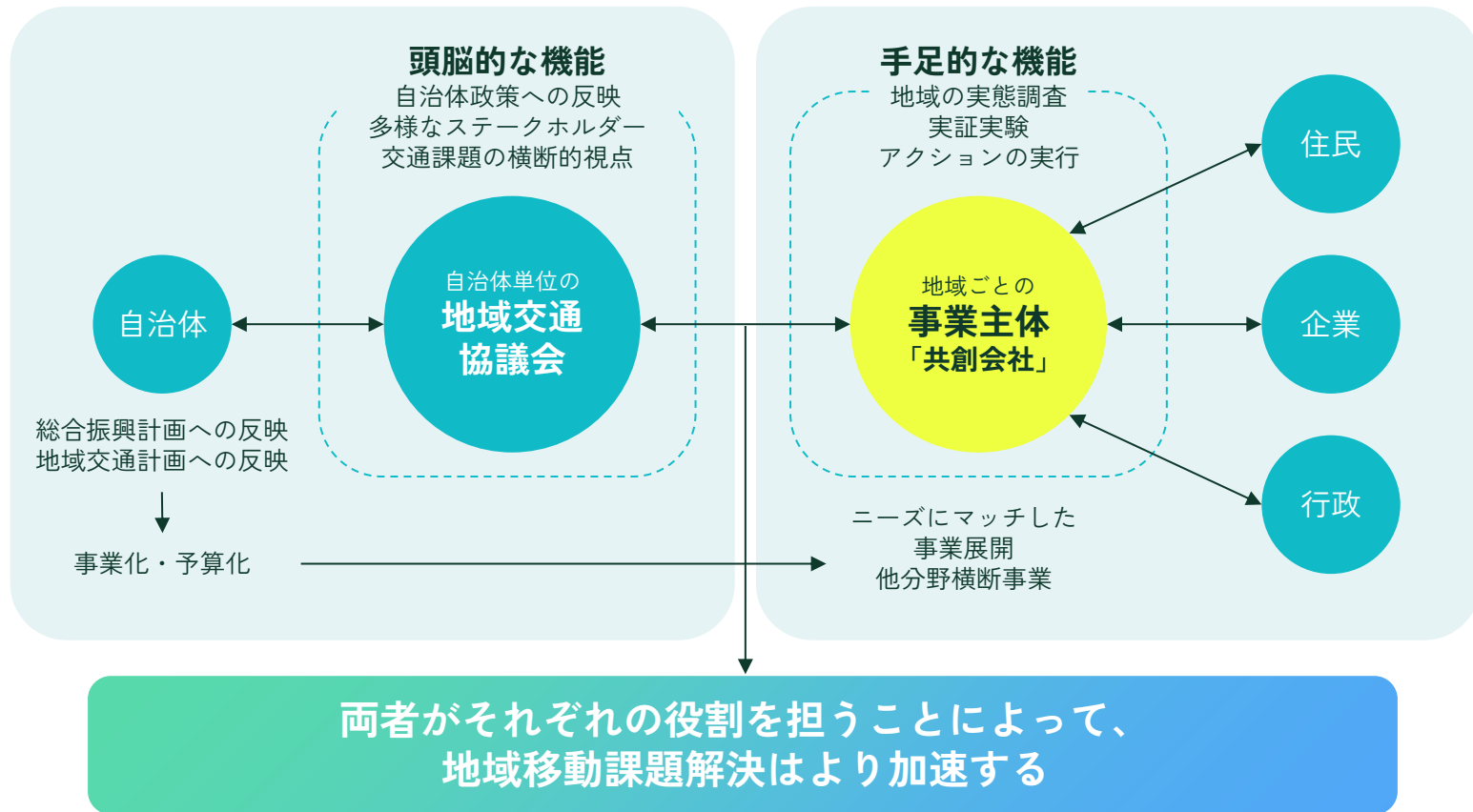
事業化



組織化



自治体と地域事業主体の連携イメージ(案)



共創でつくる会社「共創会社」設立に必要なこと

共創会社

Why

課題認識とビジョン



ex.課題の可視化

What

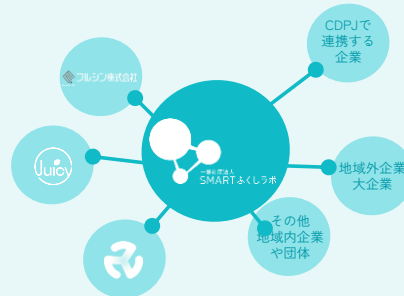
ビジネスモデル構築



ex.マイクロプロジェクト
を活用したPDCA

Who

関係性構築



ex.関係事業者との連携

How 持続可能性発展・展開（他地域・課題）

地域の移動はみんなで作る



*Community
Drive
Project*